

令和元年度 八代市議会経済企業委員会 視察報告書

■視察日程

令和2年1月21日（火）～23日（木）

■視察先

1月21日 午後 兵庫県豊岡市

1月22日 午前 京都府宮津市

1月23日 午前 兵庫県姫路市

■視察参加者

【委員会】委員長	村川 清則
副委員長	谷川 登
委員	上村 哲三
委員	鈴木田幸一
委員	田方 芳信
委員	野崎 伸也
委員	山本 幸廣

【執行部】農林水産部長 沖田 良三

【随 行】議会事務局 中川 紀子

■視察先及び目的

1 兵庫県豊岡市

『コウノトリ育むお米と豊岡スマート農業プロジェクトについて』

豊岡市では、コウノトリ育む農法による米作りが行われており、最初、数件の農家から始まった取り組みは、若手生産者や無農薬栽培を目指してIターンした生産者にまで広がり、「コウノトリを農業で支える」というスタイルが定着してきた。今では、400ヘクタールを超える田んぼで「コウノトリ育む農法」が行われている。コウノトリの餌をふやすという明確な目的のもと、農薬や化学肥料に頼らず、美味しいお米と多様な生き物を同時に育む「コウノトリ育む農法」の事業について、また、2018年5月31日よりIoTを活用して、この農法の水田管理省力化を目指す実証事業を始められ、この実証事業は、農家が管理する水田に通信回線を利用した水田センサーを設置することで、農家の方はスマートフォンなどで水位を確認できるようになり、見回りの回数の削減や見回り時間の短縮による省力化とコスト削減を図ることができるようになった。また、水位データに異常値が確認されたときは自動でメール通知する仕組みを備えている。セルラーLPWAを利用した水田の水位監視は国内初の取り組みである事業を参考とするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

2 京都府宮津市

『観光革命の推進について』

宮津市では、地域経済力を高める「自立循環型经济社会構造への転換戦略」のもと、天橋立に代表される観光資源や、海・里・山の地域資源を最大限に活かした内発型産業の創出を雇用の確保に取り組んでいる。また、宮津市を含む京都府北部地域は、平成26年7月に「海の京都観光圏」として認定を受け、地域ブランドの確立と滞在型観光地への転換を図り、今後5年間で「日本の顔」となる観光地となるよう取り組みを進めている。日本三景「天橋立」に代表される豊かな自然や地域特性を活かした魅力創出など、観光客の満足度を高めリピーターの増加を図るとともに、外国人旅行客の受入環境の整備・充実など観光まちづくりを総合的に推進している事業を参考とするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

3 兵庫県姫路市

『姫路市農林水産振興ビジョンについて』

姫路市は都市部や自然環境など多様な地域を有する姫路市の特性を活かし、後継者等の人材育成を支援するとともに、農林水産業の経営基盤の強化を図り、地域の暮らしとの結びつきをより深め、生産者と消費者がともに自然の恵みを楽しむことができる

活力ある農山漁村づくりを進めるため、「安全・安心、新鮮で良質な姫路産の農林水産の生産・流通・消費」と、「人々が生き生きと暮らし、都市と交流する農山漁村の創出」を中心とした「姫路市の多様な地域資源を活かした安全・安心で元気な農振水産の実現」を目指している事業を参考とするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的とする。

- 1 視察日時 令和2年1月21日（火） 14：45～16：15
- 2 調査事項 『コウノトリ育むお米と豊岡スマート農業プロジェクトについて』
- 3 調査内容（説明内容）
 - （1）事業の概要
 - （2）取り組み内容
 - （3）事業の成果・効果
 - （4）市民からの評価
 - （5）問題点や今後の課題※上記内容については、DVD鑑賞後、説明。

4 主な質疑応答

Q1 取り組みの中で、担当者は何人いるのか。

A1 係は、5名。もともとはコウノトリ共生課というコウノトリ野生復帰を推進する課で、環境や農業なども取り組んでいた。放鳥されて少し形になってきたあたりで農林水産課となり、もともと農林水産課は普通の農業事業をしていた。その中に、環境農業推進係が新しくできて今に至っている。

Q2 無農薬で肥料に頼らないお米の作り方というようなことで、スマートフォンを使った管理などの説明があったが、コウノトリが減少する中、豊岡市については、50から60羽程度が生育しているというようなことであるが、今後、コウノトリがたくさん飛んでくるためにはいろんな取り組みあると思うが、農家の声というのを聞きたい。皆で取り組んだということであるが、今後の進め方について気になる。また、食い違う農家がいるのではないかと思うがその辺の話を聞かせて欲しい。

A2 農家さんの中には、コウノトリ農法はしない。と言われる方もいる。管理が大変だということもある。実際、無農薬でするとなるとかなり管理が大変な部分があるろうかと思う。1軒の農家でするには限界がある。田植えの時期も、一般のお米よりも1カ月ずらした田植えになる。必ず、コウノトリのためになるからといって、やられる方ばかりではない。

最近入って来られる方は、収量が少なくても買い取り金額など掛けると、ある程度いいところに行くということで入って来られる。

2018年度に金沢大学の社会学の先生がアンケートをされ、農法参加のきっかけとして野生復帰への貢献というのを選んだ生産者は15%しかなかった。しかし、やりがいとして選んだ生産者が34%に上がった。経済的に優位性をきっかけに選んだ生産者の20%は環境保全への貢献をやりがいとして選択した。始めてしまえば意識が変わるのかなと思う。

しかし、今は機械が高いとか、市のアプローチの仕方が大口の農家さんに集中しているため、正直このままだと限界がありつつあるのかなと思う。もう少し小口の農家とか兼業農家とか、スマート農業などの取り組みを利用して無農薬の栽培がやり易いようにするとともに面積的なものもふてえて行くのかなと思う。自然界のことを考えると必ずしもこの農法だけではなくて、いろんな農法、いろんな農地、いろんな形態の土地がパッチワーク状に広がっているような環境を整える。そこに向かって農政も誘導していく必要があるのかなと思う。

Q 3 補助対象にされた田植え機、国の2分の1（地方創生）、あと、市がどれくらい補助されたか。

A 3 農家さんが3分の1、購入費用の3分の2を市が補助したうちの2分の1が地方創生、財源となる。

Q 4 台数的にはどれくらい普及しているか。

A 4 十数台。まだまだ、広がっていない。

Q 5 十数台の中で共同でされているところはないのか。

A 5 共同は1台だけ。あとは、個人。

Q 6 水田センサーの機械は、幾らくらいか。

A 6 まだ、販売されていないが、1本5, 6万くらい。

クラウドの使用料が月々2000円、通信費が1本当たり、300円。

まだ高いので、改良の余地はある。

直接、通信できることは良いことである。中山間が多いところなので親機があって、そこから子機と通信するというのは、これまでもあったが、直接通信できるとなると単体で設置ができるため、そういったメリットは安くなればできると思う。

Q 7 鳥獣被害についてはどうか。

A 7 鹿の被害が全国の中でも上位のほうである。年間に狩猟というのを含めると、年間鹿の捕獲が6500トン。この5年間の間に3万頭をはるかに超えている。

特に兵庫県の北部地域は、平成25, 6年あたりから被害がふえてきている。

鳥獣対策につきましては、専門の嘱託職員を2名採用している。この職員が地域に入って陳情や苦情なりを聞いて、豊岡市の鳥獣捕獲班という組織が約100名いて、そこと連携をとって活動をしている。

Q 8 捕獲報奨金 1 頭あたりいくらか。

A 8 鳥獣捕獲班の方には、捕獲の処分費も含めて 1 万 6 0 0 0 円。捕獲班の中でも精鋭隊があり、それに携わっている方は 1 万 6 0 0 0 円にプラス 2 万円出している。

※添付資料

- ・コウノトリ育むお米のひみつ
- ・コウノトリと共に生きる
- ・議会概要、議会だより

※視察の様子



京 都 府 宮 津 市

1 視察日時 令和2年1月22日（水）9：30～11：00

2 調査事項 『観光革命の推進について』

3 調査内容（説明内容）

- （1）事業の概要及び経緯
- （2）取り組み内容
- （3）事業の成果・効果
- （4）今後の課題や問題点

※上記内容の詳細については、別添「宮津市の観光まちづくり施策について」を参照。

4 主な質疑応答

Q 1 京都舞鶴港に大型クルーズ客船が入港するとのことであるが、宮津市の宿泊数が19.4%ということであらうと、逆に城崎町が66.9%ということであらうと、日帰りの客数も含めて、今後の大型クルーズ客船が入港したときにいかにして宮津市に宿泊をさせるかという問題と、どのような国の方が来られるのか教えていただきたい。

A 1 今年4月に来るクルーズ客船は台湾の船で、5000人乗船できるクルーズ客船が来航する。イタリアの船であっても中国の方、欧米の方も来られるが、旅行会社が舞鶴に寄港するなど決められるので、当市からは来て欲しいなどとは言えない。ただ、アジア系の旅行者が多いのは確かである。また、クルーズ客船の方が宿泊されるというのは、今の流れの中ではない。なぜかという、朝来ても夕方には出るので宿泊はないので、その受入は難しい。

しかし、今回はクルーズ客船で来て宮津市の天橋立や海の京都を観光してもらって、次回は飛行機で来てもう1回この地域を観光したいと思えるような案内をしたいと思う。

Q 2 マナー問題についてはいかがが。

A 2 あまりその問題はない。きちんとした案内や説明をすることにより問題はない。

Q 3 舞鶴港から宮津市まで来る道路状況、観光地に来たときのバスの駐車場の確保状況はどうなっているのか。

A 3 クルーズ客船を企画する会社がどこに行くかのオプションツアーを作られる。その時点で、メインは京都市とかがほとんど多い。ただ、一部天橋立のほうにも

バスで来てもらったり、京都丹後鉄道というのが西舞鶴から宮津天橋立まで来ているので、そこで降りてシャトルバスで港から西舞鶴駅まで来て列車に乗りして天橋立まで来ていただくというフリーの観光客が多い。

バスについては、天橋立にある駐車場を予約を入れて確保したうえで来られるので支障があるとかは聞いていない。

メーンはクルーズ客船の企画会社がされているのを海の京都の方で、その一部を海の京都の中で回せるような形をここ2、3年で窓口を切り開いてきたため、これまでできなかったことが逆にできるようになってきた。

Q 4 観光消費額が目標に到達するのが難しいということであるが、31年度までの計画なので、今後のはいま作成中だと思うが、循環型で実施する観光全般的なことをして、仕事をふやし定住人口をふやして行こうという話だと思う。人口流出ということで厳しいという状況が見えるが観光の仕事をしている人たちが外の出ているのか。

A 4 そうではなく、自然減でいわゆる高校までは地元で、大学への進学率が高くなってきたときに、都会に出てしまう。

Q 5 インバウンドへの対応ということで多言語表示とかキャッシュレス化というのは今からの課題ということか。

A 5 今もされているところもあるが、まだ目に見えてきてても必要性に促われてない。しかし、少しずつではあるが普及してきている。

Q 6 宮津市では、外国人労働者はどのくらいいるのか。

A 6 現在は、あまり浸透していない。ただ、労働者が減っているという部分を解消するために海の京都の中でも伊根町とか与謝野町はその動きをしたいとのことでいろんな情報収集をされている。また、宮津市も商工会議所の方が外国人の人材を活用できないか調査している。

※別添資料

- ・みやづ まちひと しごと【概要版】
- ・海の京都、2020丹後ちりめん創業300年
- ・日本三景 天橋立（旅のかわら版）など
- ・平成31年度版 議会要覧、市議会だより

※視察の様子



兵庫県 姫路市

1 視察日時 令和2年1月23日（木）10：00～11：30

2 調査事項 『姫路市農林水産振興ビジョンについて』

3 調査内容（説明内容）

- （1）事業の概要
- （2）策定の目的
- （3）今回改訂された事業の内容
- （5）今後の課題や問題点

※上記内容については、別添「姫路市農林水産振興ビジョン」、を参照。

5 主な質疑応答

Q 1 林業の部門について、木材価格の低迷による、森林所有者の木材生産意欲の減退の中で、市民全体で取り組む百年の森づくりということであるが、この百年の森づくりことについて教えていただきたい。

林業の低迷により、当市でも木材を利用したペレット状の木材で温泉の原料（バイオマス）にしているが、そのような計画は現在あるのか教えていただきたい。

A 1 百年の森構想というのは、何年か前に農林部門の方がつくったビジョンいう形になる。一番のイメージとしては、森の循環、木材の循環ということで作るだけということではなくて、最後まで面倒を見るということを一貫して、木質バイオマスの搬出という事業もあるが全てがまだ順調にいつているわけではない。その前に担い手不足だとか、林業の間伐さえされてない林野がある。

Q 2 林業大学はあるのか。先ほどは農業大学校とか先ほど話があったので。

A 2 農業の研修部門は、多々ある。林業については兵庫県が実施している山の大学校というのがある。宍粟市が主で実施している。毎年、林業をやりたいという十数人が2年間、頑張っている。姫路市の農業大学校も同様、授業料がほとんどないため行きやすいし、ものづくり大学校とかも姫路市にはある。

Q 3 6次産業化はどのくらい進んでいるのか。

A 3 農協がしているが、昔は県の農業改良普及センターと生活改良普及センターがあり、生活改良普及センターの方が集落に行って、みそとか醤油をつくったりしてたが、最近はジャムとかになっているが、大々的に成功している例というのはない。

Q 4 6次産業化のための研究施設などはあるのか。

A 4 県の本庁舎の方に6次産業化の支援施設がある。そこにいろんなアドバイザーがいるので、各部門に応じて相談会をしている。6次産業化は施設を持っていないといけなため、実際にしているところは企業がバックについていて行っている。個人では、なかなか余裕はない。

※参考資料

- ・姫路市農林水産振興ビジョン（概要版）
- ・姫路市の水産業
- ・行きたい！食べたい！めっちゃうま、行こう！魚の商店街
- ・議会要覧、議会報ひめじ

※視察の様子



<< 各委員所見 >>

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【村川清則】

◆視察日：令和2年1月21日（火）

◆視察先：兵庫県豊岡市

◆調査項目：「コウノトリ育むお米」と「豊岡スマート農業プロジェクト」について

日本で一度は絶滅した野生動物コウノトリが最後まで生息していた豊岡市では、コウノトリを保護し飼育下で繁殖させ、再び自然界に帰す「コウノトリ野生復帰プロジェクト」に1965年から取り組んでいる。1989年、長い苦難の道のりを経て人工繁殖に成功、さらに2005年には放鳥を開始、以降自然界での繁殖も進み、現在では140羽を超えるコウノトリが豊岡を中心に日本の空を飛んでいる。

コウノトリは肉食で、田んぼや川の浅瀬で1日あたり約500gのカエル・ドジョウ・フナ・ヘビなどの生きものを捕食するが、戦後のほ場整備や河川改修により湿田は姿を消し、川と水路が分断され、さらに除草剤や殺虫剤などの農薬の普及により、多くの田んぼの生きものが激減した。コウノトリを自然界で生息させる条件として、たくさんの生きものがいる田んぼにする必要がある。そのためには農薬や化学肥料を一切使用しない農業を実践する農家や田んぼを増やす必要があるが、スタート時70aだった面積は2019年度には428haと60倍以上に拡大している。

「コウノトリ育む農法」の要件として、農薬の不使用または7.5割削減・化学肥料の栽培期間中不使用の他に、オタマジャクシがカエルに変態する7月上旬まで中干しを延期・深水管理(8cm以上の深水にすることにより酸欠によるヒエ対策と、コナギの生長停滞を因る)・稲刈り後の田んぼに水を張り、微生物やイトミミズを増やす冬期湛水などを実行しているが、豊岡市にはジャンボタニシ(スクミリンゴ貝)がないので出来ることなのだと思う。八代市でこれをこのまま導入するのは無理があると考える。

(株)KDDIと提携し、水田にセルラーLPWAを利用した水田センサーを設置、農家はスマホなどで水位や水温、地温などを確認する「スマート農業プロジェクト」を本年度から開始している。これにより田んぼの見回り回数の削減や、見回り時間の短縮による省力化・コスト削減を図ることが目的であり、農家を田んぼから遠ざけることを意図したのではないということである。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【村川 清見】

◆視察日：令和2年1月22日（水）

◆視察先：京都府宮津市

◆調査項目：観光革命の推進について

宮津市は京都府北部に位置する人口18,000人あまりの小さな市であるが、日本三景の一つ「天橋立」を有する全国有数の観光地で、年間約300万人の入込客がある。2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が始まったが、宮津市は明智光秀の娘・玉（ガラシャ）その夫・細川忠興（三斎）その父・藤孝（幽斎）ゆかりの地であり、ガイドツアーや、船上茶会など新たな商品造成を計画している。

天橋立や、隣の伊根の舟屋群など映画のロケ地として相応しい場所があり、度々刑事ドラマなどに登場するが、市として売り込むようないわゆるフィルムコミッションは、取組数も十分ではないので行っていないそうである。

平成24年前後から京都舞鶴港に主にアジアからの大型クルーズ客船が多数入港するようになったが、そのほとんどが天橋立観光が目的であり、観光誘客拡大に大きなチャンスと捉えているそうである。

人々の価値感やライフスタイルが変化し、観光スタイルも団体・

物見遊山型から個人体験参加型へと変わってきているため
従来は旅行会社の企画商品が中心であったが、今後は地域
発信型の旅行商品の造成が必要であることから、シーカヤッ
クや釣り・ビーチヨガ体験・成相寺めい想体験など開発、
花火大会や砂浜ライトアップ・和火・カキ食べ比べも行っ
ている。また特産品のオイルサーティンや黒ちくわ・地酒・ワイン
無農薬の富士酢などを道の駅他で販売しているが、新た
な特産品の開発も課題として据えている。

観光行政は、市民・団体を巻き込まないと、市職員だけで
はどうしてもマンパワーが不足する。八代市に於てはDMO
を中心に頑張っているが、いかに商店街や市民を
巻き込んでいくかが課題であろう。

八代港も工事が進み、供用開始目前である。クルーズ船
の観光客を、伝承館(仮称)や商店街にいかに導くかも課
題であるが、「観光はなかなか前に進まないのも無理せず、
息の長い取り組みを進めていくことが重要である。」という
結びが印象的であった。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【村川清則】

- ◆視察日：令和2年1月23日（木）
- ◆視察先：兵庫県姫路市
- ◆調査項目：姫路市農林水産振興ビジョンについて

・姫路市は平成18年3月の市町合併を機に、農林水産資源の拡大・農林水産業の多様な担い手の育成・消費者の安全安心への関心の高まり・地産地消の推進等の課題に対し、農林水産業振興の検討が求められたことから、平成21年度～平成30年度を計画期間とし、平成21年3月に「姫路市農林水産振興ビジョン」を策定している。その後、中間年次の平成26年に見直しを行い、平成31年度に改訂を実施、計画期間は令和5年度までの5年間である。今回は地域別の特性の項と、計画期間内に目指すチャレンジプランの項を追加している。

・市内を農林水産業の特性から北部地域、西部地域、東部地域、南部・市街化区域農地、沿岸・諸島地域の5地域に区分けし、地域別施策の展開を目指している。

・チャレンジプランとしては農業分野では6次産業化＋ブランド化の推進、林業分野では百年の森構想の実現に向けた

循環型林業の推進、水産業分野では直売所の充実と6次産業化の推進を掲げている。

・下水道や浄化槽の整備が進むにつれ、漁場である海のプランクトンが減少し、その結果食物連鎖により魚介類やノリ等の漁獲高も年々減少している現況の中、漁場の貧栄養化の抑制について、法律に則し、浄化センターにおける試験的な栄養塩管理運転(下水処理を完全にはしない)を実施している。

・市内の農家が市内で生産した農産物に「姫そだち」というブランドマークをつけ販売している。

・漁業への理解・関心を深めるため、小学生対象の漁業体験見学船(全長24m、19t、最大80名)を竣工、国 $\frac{1}{2}$ ・県 $\frac{7}{100}$ ・市 $\frac{1}{10}$ の補助で船主は地元漁協である。

・市内では水稲の他にハーブや軟弱野菜・トマト・ねぎ・ゆず・れんこん・メロン・バナナなど多くの農産物がある。市程大規模ではないが若手就農者もいるということである。農林水産業は小規模でも販売先さえ持っていれば、安定した経営が可能なのだと改めて認識させられた視察研修となった。

経済企業委員会視察所見

議員名「谷川 登」

視察日：令和2年1月21日 {火曜日}

視察先：兵庫県豊岡市

調査項目：コウノトリ育むお米と豊岡スマート農業プロジェクトについて

豊岡市で取り組んでいるコウノトリ育むスマート農業プロジェクト栽培方法は、無農薬栽培、田植えから中干しまで、雑草対策として通常よりも深く水を張る深水管理を行う必要となり、農薬を使用しない代わりに、害虫を食べてくれるカエルやヤゴを増やすため、通常よりも長い期間水を張る方法で栽培に取り組んでいる。

また、コウノトリ育む農法は、通常よりも小まめな水管理を長い期間行うため、見回りに労力がいる。

特に、大規模農家は水田が広範囲に及ぶため、見回りに半日かかることもあり水管理の省力化が課題となっている。

そこで、豊岡市とKDDI株式会社は、2016年9月に地域活性化を目的とした包括協定を締結した。

また、国内初セルラーLPWAに対応した水位センサーによる水田管理省力化スマート農業プロジェクト事業を開始した。

豊岡市の農家が管理する水田に通信回線を利用した水位センサーを設置することで、農家の方はスマートフォンなどで水位を確認できるようになり見回り回数の削減や見回り時間の短縮による省力化とコスト削減に取り組んでいる。

本市においても、今後スマート農業の検討が必要であると思う。

経済企業委員会視察所見

議員名「谷川 登」

視察日：令和2年1月22日 {水曜日}
視察先：京都府宮津市
調査項目：観光革命の推進について

宮津市は、地域経済力を高める自立循環型経済社会構造への転換戦略のもと、天橋立に代表される観光資源や、海、里、山の地域資源を最大限に活かした内発型産業の創出と雇用及び観光革命による働く場の確保を目標として取り組んでいる。

市内事業所の事業員数平成24年で9,135人、平成31年で9,500人を目標として、海、里、山の地域資源を活かした里山経済圏の商品販売額、平成24年が253億円で、平成31年目標280億円を目標としている。また、製造品出荷額平成24年が91億円で、平成31年100億円を目標として観光革命の推進に取り組んでいる。

また、宮津市観光は、旅行業、宿泊業、輸送業にとどまらず、飲食業、小売業、さらには、農林水産業、製造業など、様々な産業分野への経済波及効果の高い総合産業である。

宮津市を含む京都府北部地域は、平成26年7月に海の京都観光圏として認定を受け、地域ブランドの確立と滞在型観光地への転換を図り今後5年間で日本の顔となる観光地となるよう目指している。

また、日本三景天橋立に代表される豊かな自然や地域特性をいかした魅力創出など、観光客の満足度を高めリピーターの増加を図るとともに、外国人旅行客の受入環境の整備充実など観光まちづくりを推進活動を行っている。

また、宮津産の材料を使った土産づくりなど、観光で稼げるまちへの転換を図り観光革命を起こすことにより、地域の経済力を高め宮津市観光革命の推進に取り組んでいる。

本市においても、観光革命による働く場の確保が必要と思う。

経済企業委員会視察所見

議員名「谷川 登」

視察日：令和2年1月23日 {木曜日}

視察先：兵庫県姫路市

調査項目：姫路市農林産振興ビジョンについて

姫路市農林水産振興ビジョン計画期間は、5年間で姫路市総合計画における目指すべき都市像生きがいと魅力ある住みよい都市姫路市特性活かし、後継者等の人材育成を支援するとともに、農林水産業の経営基盤の強化を図り、地域のくらしとの結びつきをより深め生産者と消費者が共に自然の恵みを享受できる活力ある農村漁村づくりを進めるため安全、安心、新鮮で良質な姫路産の農林水産物の生産、流通、消費と人々が生き生きと暮らし、元気な水産業に取り組んでいる。

また、6次産業化＋ブランド化の推進するとともに産直等の販路開拓、新商品開発等に取り組み大型直売所店舗として直売所機能の販売促進に取り組んでいる。

百年の森構想の実現へ向けた循環型林業の推進については、森林の循環、木材の循環を形成し資源としての木材生産を継続しながら森林を保全、育成する間伐を支援を行っている。

森林環境譲与税を活用し、地形林道等生産基盤、森林資源量をデータ化し、森林整備、施業をより計画的効率的に実施している。

また、水産物直売所流通拠点として整備された妻鹿漁港フィッシュモールにおいて、漁業者が実施する漁業体験見学船事業、季節に合わせた各種イベントを開催、魚種のブランド化についてのPR、水産加工等の新規機材の支援を行うことで水産物直売所拠点の充実と6次産業化に取り組んでいる。

本市においても、百年の森構想の実現へ向けた循環型林業の推進が必要と思う。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 上村 哲三 】

◆視察日：令和2年1月21日（火）

◆視察先：兵庫県豊岡市

◆調査項目：「コウノトリ育むお米」と「豊岡スマート農業プロジェクト」について

「コウノトリ育むお米」について

豊岡市では、日本で最後のコウノトリが生息していた。そこで、コウノトリを保護し再び自然界へ帰す「コウノトリ野生復帰プロジェクト」に1965年から取り組み、その要は、農業と結ぶ。田んぼを生き物でいっぱいにする為、無農薬栽培を目指し、市内の400haを超え田んぼで「コウノトリ育む農法」が行なわれており、「コウノトリのエサを増やす」という明確な目的のもと、農薬や化学肥料に頼らず、美味しいお米と多様な生物を同時に育む農法が、推進されてきた。

【課題】

近年、米価が低迷する中で、徐々に「コウノトリ育むお米」は、認知され、高付加価値が通用して来ているが、反収量が少ない、市内全農家の25%程度が参入しているだけという、今後

の課題もある。

「豊岡スマート農業プロジェクト」について

豊岡市とKDDI(株)は、ICT等活用による省力・高品質生産を実現する為に開始し、その第一弾として4月30日からIoTを活用した無農薬栽培(コウトリ育む農法)の水田管理省力化を目指す実証事業を始めた。

【内容】

国内初、セルラーLPWAに対応した水位センサーによる水田管理省力化(農業の見える化)をすすめ、「コウトリ育む農法」とリンクしている。

【今後の課題】

農業の見える化(農家の勘と経験とデータ化)をすすめ、収量の向上と品質の安定化、産業界振興をはかる。
・自然環境等に配慮した農法は大変重要であり本市においても一石を投じられるものとみられる。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 工本井三 】

◆視察日：令和2年1月22日（水）

◆視察先：京都府宮津市

◆調査項目：観光革命の推進について

宮津市は「日本三景」と呼ばれる「天橋立」を有し「観光立市」である。

近年、市では、人口減少が極端にすすみ、観光スタイルの変化、交通基盤等の整備連携により宮津市総合計画 重要戦略「自立循環型経済社会構造への転換」とし、「しごとをつくり、安心して働けるようにする」⇒目標「観光革命による働く場の確保」⇒観光革命の推進の日本の顔となる観光地づくり③Made in 宮津の生産品づくり④誘客促進と外国人観光客の受入体制整備とした。

結果、観光入込客数は、277万人(H.25)⇒^{目標}300万人超

観光消費額 89億円(H.25)⇒^{目標}150億円に

外国人観光客宿泊数 1.4万人(H.25)⇒^{目標}5万人に

達する

本市においては、海から山内地迄豊かな自然と
文化遺産が少なく、又、新しく港の観光客船
施設の整備も進んできている。

これを整理して、具体的目標、体系構築と
為し、観光産業を振興させインバウンド
を画する必要性は大きい物と感じる。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 上村 孝三 】

◆視察日：令和2年1月23日（木）

◆視察先：兵庫県姫路市

◆調査項目：姫路市農林水産振興ビジョンについて

計画期間とは、H31～35年度に5年間で、

農林水産業の課題と抽出の農林水産業の脆弱化、

②担い手不足 ③食の安全・安心への関心の高まりの農山漁村

の減少低下 ⇒「農林水産業・農山漁村の将来像・基本

理念」と定める。⇒実現のための施策展開（4つの基本

方向に沿って16の方策を掲げ、目指す姿の実現に取り組む。

市町村合併により、広範囲となった姫路と

その地域の資源や特性を考慮し5つの地域

に区分し地域毎の現況や課題を整理する

ことで地域別の施策に反映させる。

又、計画期間内に目指すチャレンジプランとして

①6次産業化②ブランド化を推進するとして

事業を展開 ②百年の森構想の実現へ向けた

循環型林業の推進 ③水産物直売所拠点の

充実と6次産業化の推進等である。

本市は、海岸部から平野部、山内部と
広範な地勢を持ち、姫路市と似かよった
ものがある。

今後、各地域の振興について、ちゃんとした
地区分とし、現況、課題を抽出して、方向
性(将来像)をしっかりと示していくことが重要
であるように思う。

はじめに

今回は兵庫県豊岡市の「コウノトリ育むお米」と「豊岡市スマート農業プロジェクト」についてと京都府宮津市の「観光革命の推進」についてと兵庫県姫路市の「姫路市の農林水産振興ビジョン」について、それぞれの市役所で担当職員の皆さんのもとで研修を行わせていただいた。

◎兵庫県豊岡市の「コウノトリ育むお米」と「豊岡市スマート農業プロジェクト」については関貫議長の挨拶の後、豊岡市コウノトリ共生部農林水産課石田課長・山本係長・安達氏の説明が行われた。それによるとコウノトリの人工飼育を始めることで無農薬の米づくりに取り組む農家を増やし、農家収入を増やし生活の安定を計るということである。

取り組み内容

生産と流通の支援

- 「コウノトリ育む農法」は慣行栽培と比べて水管理や除草の手間がかかるため、農機具購入や作業への補助金交付や、負担軽減のためにスマート農業の導入試験を行っています。
- 販売についても、特に経費が多くなる初期段階を市が支援することとしており、国内外店舗での販売プロモーションや出展事業への支援を行っています。

事業の成果・効果

生産量が増加し販売網も堅調に拡大、スマート農業は試験導入の継続中

- 2003年に0.7haからスタートした農法が、2019年度には428haにまで拡大し、JAによる販売も堅調に推移しています。無農薬・減農薬のお米は高値で取引され、農家所得の向上にも寄与していると言えます。
- 2015年のミラノ万博・日本館で採用されて以降、海外の高級和食店での使用やハイグレードスーパーでの販売など、輸出も増えています。
- 「水田センサー」の導入により、水管理の省力化が実証されました。

問題点や今後の課題

- これまで、大規模農家を中心に同農法を推進し一定の成果が得られていますが、さらなる面積拡大には小規模農家への普及拡大が必要となります。無農薬栽培や減農薬栽培の手間やリスクを減らすことが課題と言えます。
- 主食用米の国内消費は低迷を続けており、販売網のさらなる拡大が喫緊の課題です。
- 「水田センサー」の普及には価格やメンテナンス性がネックとなるため、打開策が必要です。また収集したデータの有効活用も今後の課題と言えます。

◎とても画期的ですばらしい米作りの方法であると感心した。農家やJAの協力もあり今後大いにきたいが持てるものだと思う。ただもっと米を高い価格で販売しないと後継者は育ちにくいと感じがした。

次世代育成

生きものと人が共に暮らせる持続可能な社会に向けて、子どもたちと一緒にコウノトリ野生復帰に取り組み、「未来」を育てていきます。

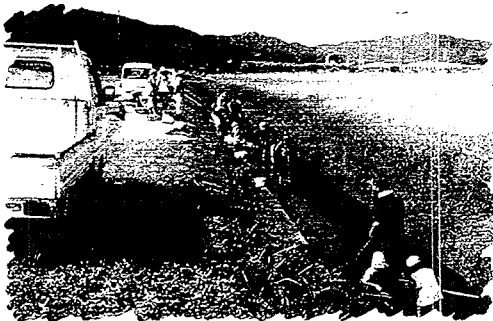


コウノトリKIDSクラブ

コウノトリを中心とした生きもののための野外飼育場
を通じて、コウノトリ野生復帰を未来に継承して
けるキーパーソンを育成します

環境教育（ふるさと教育）

出た。これ
 二つは、
 で作られた。そして、
 し、ふたつは、
 んでいます

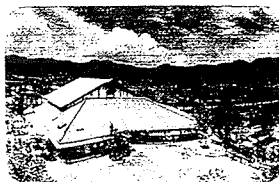


出張!田んぼの学校

講師が地域に出張し、大人も子ども
も一緒になって、身近な場所で生き
ものとふれあいます。

豊岡市立コウノトリ文化館

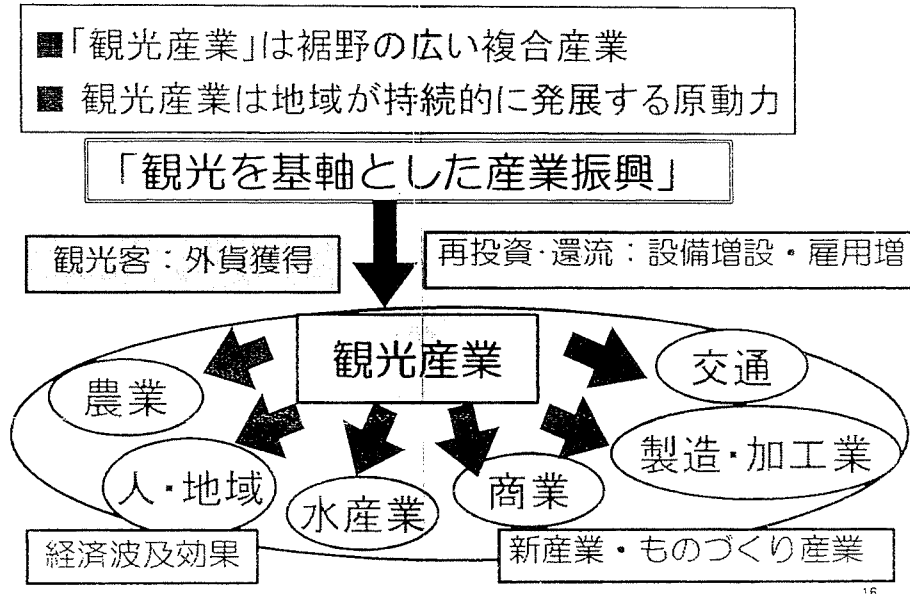
開放的な公開ケージで暮らすコウノトリを観察したり、コウノトリ野生復帰の歴史などを学んだりできる拠点施設です。小川や里山の自然観察、野鳥観察など様々な野外体験もできます。毎月第3日曜日は、親子で楽しめる「田んぼの学校」を開催しています。



TEL 0796-23-7750 豊岡市祥雲寺 127 番地

◎京都府宮津市の「観光革命の推進」については北仲議長の挨拶の後、宮津市産業経済部商工観光課前田課長により説明が行われた。それによると「天の橋立て」を中心とした観光立市として位置付けて、仕事・企業誘致・人口対策・人づくり・等の連携を模索しておられた。

宮津市は“観光立市”



観光革命の必要性、背景等

【まとめ】

- ・ 観光入込客の拡大のチャンスを生かす
- ・ 一過性のものでなく、継続して来ていただくため、満足度の高い観光地に
- ・ 着地型旅行商品の造成により、滞在時間を延長し、日帰りから宿泊に
- ・ 宿泊客の増加、土産品づくりで、観光消費額の拡大へ ⇒ 稼ぐ観光へ

◎宮津市も人口の減少がすすみ、その対策に苦慮しておられるように感じたが、観光産業を中心に子育て支援や次世代を担う人造りを考えておられるようであったが今後の対応が楽しみである。

◎兵庫県姫路市の「姫路市の農林水産振興ビジョン」については姫路市産業局農林水産部農政総務課農政企画室の「脇坂氏」と農政地産地消担当係長「井上氏」により説明が行われた。それによると農林水産振興ビジョンといっても、後継者不足が大きく大きくかぶさり、農林水産物の安定供給と安心安全を保つための、政策のようである。

本土沿岸部概要

姫路市の沿岸部は、瀬戸内海の東部の播磨灘にあり、市川、夢前川、揖保川などが流れ込む遠浅の海です。海岸部は約18kmで、その多くは開発により工業地帯として埋め立てられています。

沿岸部には姫路市漁業協同組合があります。

家島諸島部概要

本土の南西約18kmの沖合には大小約40島からなる自然にめぐまれた家島諸島があります。その周辺は水深も深く、豊かな漁場で知られています。家島群島には家島及び坊勢漁業協同組合の2つの漁協があり、それぞれ活発な漁業を営んでおり、漁獲量も県下有数の規模となっています。

姫路市の漁業について

姫路で行われている主な漁法は、中型まき網漁業、小型機船底びき網漁業、機船船びき網漁業、小型定置網漁業、刺網漁業などで沖合から沿岸地先まで広く、いろいろな方法で漁をしています。また、養殖業も盛んで、ノリ、カキ、ワカメ、サバなどが養殖されています。

今回、特に興味があったのは「白小豆」であった。紫色ではなく、白の小豆であるためほかの食品と混ぜたりかけ合わせることでにより上品に仕上がるということであった。しかし生産量が少なく一般にはまだ普及し辛いとのことである。しかし生産量が増えることになるとフードバレー構想にも大いに役立つように感じた。

おわりに

今回初めての経済企業委員会の研修を経験させてもらった。兵庫県豊岡市・京都府宮津市・兵庫県姫路市の近畿三市であったが、それぞれに特徴のある経済政策を取っておられた。行政中心の政策には限度があるとはいうものの、いずれも地域経済を発展させるためこのままではよく無いという一生懸命が伝わってきた。特に兵庫県豊岡市の「コウノトリ育むお米」の政策には市民との一体感とともに今後の可能性を見たような気がした。今後それぞれの各市の発展と、八代市の発展と可能性を期待し私達議員も頑張ろうと思う。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【田方芳信】

◆視察日：令和2年1月21日（火）

◆視察先：兵庫県豊岡市

◆調査項目：「コウノトリ育むお米」と「豊岡スマート農業プロジェクト」について

コウノトリは、田んぼや川の浅瀬を、カエル・トビ・マス・フナなどの生きものを食べて暮らしています。

その量は、1日あたり約 500g。コウノトリが生き残るためには、自然にエサとなる大量の生きものが必要です。

しかし、除草や害虫駆除のために撒かれた農薬が、多くの田んぼの生きものの命を奪いました。エサを失い、農薬に体を蝕まれたコウノトリは、繁殖力を失い、最後には飛ぶ力さえ残らなくなりました。

豊岡市ではコウノトリの保護から、24年後の1989年、長い苦難の道のりを経てコウノトリの人工繁殖に成功。2005年にはコウノトリを自然界に放し、野生復帰を目指す取り組みもスタートしました。再び自然界で暮らすようになるコウノトリは生き残るために大量のエサを必要とします。コウノトリの主な生息地である田んぼで生きものがいなければ、田んぼにはなりません。

コウノトリの復活の70年と最も変わらなければならなかったのは、農業です。

2005年のコウトリ放鳥以後、野外での繁殖も進み、自然界で暮らすコウトリも順調に増えていきました。それに伴ってコウトリ育ち農法による米作りも増加。最初、数件の農家から始まった取り組みは、若手生産者や、無農事栽培を目指したインターンした生産者にも広がり、コウトリも農業を支えるというスタイルが定着していきました。

無農事栽培や減農事栽培の中間やリスクを減らすのが課題と言えます。

主食用米の国内消費は低迷を続けており、販売網のさらなる拡大が喫緊の課題です。

水田センサーの普及には価格やメンテナンス性のネックが大きな打開策が必要と見えます。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【田方芳信】

◆視察日：令和2年1月22日（水）

◆視察先：京都府宮津市

◆調査項目：観光革命の推進について

日帰り客の割合が増加（交通網の向上）

日本人観光客の減少（人口の減少） 観光入込客

観光消費額ともに伸び悩む

国内市場の縮小（安価な海外旅行）

地域間競争が激化（どこもが観光に注目）

滞在型観光地への転換、リピータ率の向上等と

図っていくことが重要課題。

観光入込客の拡大のチャンスを生かす

一過性のものではなく、継続に果たしたため、満足度の高い観光地に。

着地型旅行商品の造成により、滞在時間を

延長し、日帰り宿泊に。宿泊客の増加、土産物づくり

観光消費額の拡大へ繋ぐ観光入。

しかし、観光は 時々 時々 前に 進まない

観光業者とあ、とも、自分のことが大事

観光行政は、自らがやるのではなく、民間、住民にやる気を
起こさせるのが仕事

市民、団体を巻き込まないとマンパワーが不足

成功事例を見せないと、理解してもらえない

無理せず、息の長い取り組みを進めていくことが重要

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 田中 芳信 】

- ◆視察日：令和2年1月23日（木）
- ◆視察先：兵庫県姫路市
- ◆調査項目：姫路市農林水産振興ビジョンについて

6次産業化により農林水産物の高付加価値化を推進するとともに、産直等の販路開拓、新商品開発等に取り組む農林漁業者等を支援していきます。

大型直売所「旬彩蔵書写」をモデル店舗として選定し「6次産業+ブランド化」推進による直売所機能の充実や販売促進等の取組みを支援すること、総合的に農水産物のブランド化を推進し「森林の循環」「木材の循環」を形成し、市としては特に「森林の循環」において資源としての木材生産を継続しながら森林を保全、育成する搬出間伐を支援し、「森林環境譲与税」を活用し、地形、林道等生産基盤、森林資源量を解析データ化し、森林整備、施業をより計画的、効率的に実施するとともにデータ活用による森林整備の充実を図り、循環型林業を推進しなければならない。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 野崎 伸也 】

◆視察日：令和2年1月21日（火）

◆視察先：兵庫県豊岡市

◆調査項目：「コウノトリ育むお米」と「豊岡スマート農業プロジェクト」について

事業の概要

コウノトリ育む農法の推進

・日本で一度は絶滅したコウノトリを復活させるため、主な採餌場所である水田に餌となる生き物を増やそうと、生産者・JA・行政が協働して「コウノトリ育む農法（無農薬・減農薬）」に取り組んだ。

※コウノトリをきっかけに豊かな自然を取り戻そうがスローガン。

取り組み内容

生産と流通の支援

・「コウノトリ育む農法」は慣行栽培と比べて水管理や除草の手間がかかるため、農機具購入や作業への補助金交付や、負担軽減のためにスマート農業の導入私見を行っています。

・販売についても、特に経費が多くなる初期段階を市が支援することとしており、国内店舗での販売プロモーションや出展事業への支援を行っている。

※コウノトリ育む農法

・コウノトリの餌を増やす事。無農薬、減農薬で米作り。特徴は、①中干し延期でカエルの変態を確認してから水を抜く。②冬季冠水で抑草効果と生物多様性保全。トロトロ層に雑草が埋もれ発芽しない効果。深水管理で雑草より水深を深くすることで雑草の成長を抑制。

事業の成果・効果

生産量が増加し販売網も堅調に拡大、スマート農業は試験導入の継続中

・2003年に0.7haからスタートした農法が、2019年度には428haにまで拡大し、JAによる販売も堅調に推移している。無農薬・減農薬のお米は高値で取引され、農家所得の向上にも寄与している。

※豊岡市の水稻面積（主食・酒・米粉）2760ha内、コウノトリ育む農法428haで15%。

※通常栽培のお米より約1.6倍の収益。単収：無農薬370kg 減農薬470kg

※小学生が市長へ直談判

自分達にも何か出来ないか？と考えた末、自分たちがお米の消費量を増やすことでコウノトリ米の栽培が増える考え、「学校給食にコウノトリ米」を使用するよう市長に直談判し採用された。

・2015年のミラノ万博・日本館で採用されて以降、海外の高級和食店での使用やハイグレードスーパーでの販売など、輸出も増えている。

・水田センサーの導入により、水管理の省力化が実証された。

市民からの評価

生産者からは一定の評価

・生産者を対象に金沢大学が実施（2018）したアンケートによると、「コウノトリ野生復活への貢献」を農法参加の“きっかけ”として選んだ生産者は15%に留まるものの、“やりがい”として「コウノトリ野生復帰への貢献」を選んだ生産者は34%に上った。

経済的な優位性を“きっかけ”に選んだ生産者の20%が環境保全への貢献を“やりがい”として選択しており、育む農法に対してエコロジカルな関心が高まっていると推測できる。

また、「今後もコウノトリ育む農法を続けていく」と回答した生産者が86%に上り、同農法へのモチベーションは高いと言える。

・「水田センサー」を試験導入した生産者からは、特に遠方の水田管理などに効果が高い評価を受けている。

問題点や今後の課題

・これまで、大規模農家を中心に同農法を推進し一定の成果が得られていますが、さらなる面積拡大には小規模農家への普及拡大が必要となります。無農薬栽培や減農薬栽培の手間やリスクを減らすことが課題と言える。

・主食用米の国内消費は低迷を続けており、販売網のさらなる拡大が喫緊の課題。

・「水田センサー」の普及には価格やメンテナンス性がネックとなるため、打開策が必要。

また、収集したデータの有効活用も今後の課題。

質 疑

Q：コウノトリ育む農法が緩やかに増加している。目標が2021年で全体の51%となっているが、問題があるとすれば何か？また、その対策は？

A：これまで大口の農家に対してのみ農法転換を進めてきた。今後は小口へも促していきたい。また、単収を上げるために、コウノトリ育む農法のみでなく様々な栽培方法も研究していく。

Q：水田センサーは1本いくらになるか？

A：機械単品で5万円程度。プラス通信費が1本あたり300円。安くなれば普及が進むと思われる。

Q：コウノトリは大型で大量に餌が必要と思われる。コウノトリが食害し、鳥獣被害となっていないか。

A：今のところコウノトリが悪さしているなどの被害はない。市民全体で可愛がられている。

所 見

・中干し延期や深水管理など無農薬栽培含め地域性や土地柄もあることから、八代市でも可能なのかJA等との検討材料としたい。しかしながら、無農薬米の価格を鑑みればチャレンジする意義があり、行政が民間とタイアップし販路拡大が出来ればと考える。

・水田センサーも試す価値ありと思うが単価が下がらなければ拡大していかない。行政からメーカーへのプッシュは必要と感じた。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 野崎 伸也 】

- ◆視察日：令和2年1月22日（水）
- ◆視察先：京都府宮津市
- ◆調査項目：観光革命の推進について

宮津市の概要

面積：172.74km² 人口・世帯数：18,426人・7,738世帯（H27 国税調査）
特徴：全国有数の観光地（約300万人の入込客） 日本海と山に囲まれたまち（美しい海
里山の自然、日本三景の一つ「天橋立」がある町） 美味しい食べ物（魚介類、コシヒカリ
地酒、ワイン等々） 悠久の歴史文化（宮津城下町、細川忠興・ガラシャ、与謝野蕪村、北
前船寄港地、カトリック宮津教会など）

最近の話題・課題

- ・トリップアドバイザー人気テーマパークトップ10で天橋立ビューランドが第9位
 - ・夏に見たい日本の絶景ランキングトップ10で天橋立砂浜ライトアップが第3位
 - ・来日外国人が選んだ夏の日本名所、絶景、世界遺産ベスト20で天橋立が第18位
 - ・中国人観光客人気観光地ランキングで天橋立が第5位、金引の滝が第28位
- 以上のように、昔から日本三景「天橋立」を中心に観光で発展してきた経緯あり。
- 観光ニーズの変化で入込客数の減少、特に宿泊者数の減少が顕著。
 - 観光産業の衰退で、働く場所が減少し人口減少に拍車。

観光革命

- ・「仕事をつくり、安心して働けるようにする」→観光革命による働く場の確保！
- 日本の顔となる観光地づくり→天橋立だけに頼らない。
- Made in 宮津の土産物づくり→地元産は10%以下で市外業者から仕入れたものが大半。
- 誘客促進と外国人観光客の受入体制整備→京都舞鶴港に大型クルーズ船が多数寄港。

観光革命の目標 H31年度までに

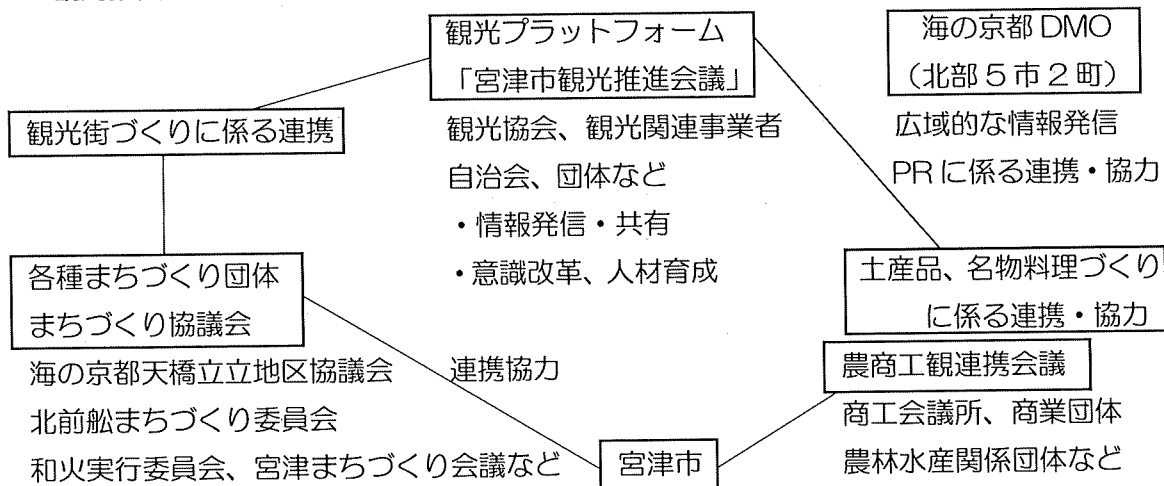
- ・観光入込客数 277万人（H25）→ 300万人超
- ・観光消費額 89億円（H25）→ 150億円
- ・外国人観光客宿泊数 1.4万人（H25）→ 5万人

取組の内容

- ・滞在型観光への転換
日本三景・天橋立に来たお客さんの滞在時間の延長

- ① 滞在型観光へ…観光消費額 3,000 円/人⇒5,000 円/人
- ② リピーター確保…観光客 297 万人⇒300 万人以上に
- ③ ブランド商品、お土産物の開発
- ④ 天橋立プラスワンの展開…既存資源の活用
天橋立 + 街中観光と食の魅力発信
天橋立 + エコツーリズム（農泊も視野）
- ⑤ ラグジュアリー&異空間「シエナヒルズ」
グランドーム京都天橋立、マリントピア・ザ・スイート 70 件の宿泊施設で 3,000 人/日のキャパあり。

・観光振興に向けた推進体制（役割分担・連携・協力）



・誘客イベント

- ① 宮津灯篋流し花火大会 ②天橋立まち灯り（砂浜ライトアップ） ③城下町宮津 7 万石和火 ④冬の宮津満腹祭（日本三景のカキ食べ比べ）

・海の活用

- ① 海水浴場の開設 ②天橋立パーク&クルーズ（ピーク時の渋滞緩和）

・体験プログラム

- ① 天橋立シーカヤック ②天橋立釣り体験 ③天橋立ビーチヨガ体験 ④成相寺瞑想体験

・食の魅力発信

- ① プリしゃぶ（発祥の地） ②道の駅「海の京都宮津」おさかなキッチンみやづ ③宮津天橋立漁師町ととまーと ④天橋立名物「智恵の餅」 ⑤天橋立黒ちくわ ⑥天橋立オイルサーディン ⑥特産品「富士酢」、「地酒」、「天橋立ワイン」

観光革命の効果

- ・観光入込客数と宿泊数 平成 30 年度 入込客数 297 万人、宿泊者数 53 万人

※平成 29 年度 301 万人、57 万人 → 達成！

- ・観光消費額 平成 30 年度 95 億円 → 未達成
- ・外国人観光客宿泊数 平成 30 年度 4 万 1,792 人 → 未達成

観光振興に向けた課題

- ① 歩きたくなる、泊まりたくなる魅力づくり → 願わくば住んでもらえたら…移住定住へ
- ② 有形無形の歴史文化資源の活用
- ③ 食の魅力づくりと新たな特産品開発
- ④ 宮津湾、海の活用
- ⑤ 誘客を高める交通システムの構築
- ⑥ 受入れ体制の整備強化と人材育成…観光ガイドの養成が急務
- ⑦ インバウンドの推進…多言語表示、キャッシュレス化など

しかし、観光はなかなか前に進まない

- ・観光業者であっても、自分のことが大事 → 皆忙しいので出来る時出来る人が対応
 - ・観光行政は、自らやるのではなく、民間、住民にやる気を起こさせるのが仕事
 - ・市民、団体を巻き込まないとマンパワーが不足
 - ・成功事例を見せないと、理解してもらえない
- 無理せず、息の長い取り組みを進めていくことが大事

質 疑

Q：観光の様々な事業展開で人口減少対策をも補完されている。効果は如何か？

A：人口は高校卒業からの流出と自然減で減少が進んでいる。観光による働く場の創出は出来てきているが、土地柄か宮津の人は土日働きたくない人が多く、市外から働きに来る人が多い状況。

Q：フィルムコミッションはしないのか？

A：宣言してしまえば、高校や大学サークルなどにも対応しなくてはならない。対応する人が必要となる事からしないようにしている。

所 見

・天橋立というビッグネームの観光地を持つ宮津市が、心から羨ましいと感じた。説明では天橋立からの脱却を進められていたが、随所に天橋立頼みが垣間見えた。景勝地であり、素晴らしい景色はいつの時代も人を引き付ける魅力があると感じた。

・宮津市は漁業の町でもあるが、やはり観光収入に頼る町であり、近年、若干の観光客減少に危機感を抱き様々な施策を展開されていること。また、人口減少に歯止めを掛けるべく、観光産業の活性化による働く場所づくりにも力を入れていた。職員のパワーを感じた。

・八代市には、世界に誇る観光名所は無いが、妙見祭や城址、花火大会など既存の資源があり、海・山・川の魅力も発信できる。宮津市のように、これでもかというくらいの取り組みは、まだまだ出来ていないと思われることから今回の資料を含め、担当部署と今後の八代市の観光業について話をしてみたい。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 野崎 伸也 】

- ◆視察日：令和2年1月21日（火）
- ◆視察先：兵庫県姫路市
- ◆調査項目：姫路市農林水産振興ビジョンについて

姫路市の農林水産業の現状と課題

- ・農業産出額 68 億 6 千万円（畜産 29 億 6 千万円、米 26 億 9 千万円、野菜 8 億 9 千万円）
- ・多様な地域を有する姫路市 山から海までの市域で農山漁村と都市部が近接
- ・農業分野では H27 年の従事者数が 5,880 人（H22 年比－37％）、65 歳以上の高齢化率が 46.2％と高い、耕作放棄地も増加、認定農業者数（企業参入）が増加の状況。
※後継者不足の解消や農地保全を図るため、多様な担い手の確保がますます重要に。
- ・林業部門では、間伐実施面積が H28 年 154ha（H23 比－220ha）でほぼしていない状況。民有林の森林蓄積は、H28 年 4,737 千 m³（H23 比＋300ha）と売れていない。
※木材価格の低迷による、森林所有者の木材生産意欲の減退。それに伴う森林蓄積の増加と森林の荒廃。木材利用の推進と森林の多面的機能の維持必要に。
- ・水産業部門では、正規組合員数が H30 年 692 人（H25 比－57 人）、漁獲量は増加傾向
※漁業就業者の確保、育成に努めると共に、経営基盤強化が急務。

ビジョンの策定経緯（計画期間）

- ・平成 21 年 3 月姫路市農林水産振興ビジョン策定（計画期間：21 年～30 年の 10 年）
平成 18 年の市町村合併を機に、担い手の育成や地産地消の推進等の機運高により策定。
- ・平成 26 年 3 月姫路市農林水産振興ビジョン改訂（計画期間：26 年～30 年の 5 年）
取り巻く社会や経済情勢の変化により中間年次に見直し
- ・平成 31 年 3 月姫路市農林水産振興ビジョン改訂（計画期間：R1 年～R5 年の 5 年）
前ビジョンの計画期間終了に伴い改訂。
改訂方針➡①目指すべき将来像、目標指数の見直し②地域別の特性の項を追加③計画期間内に目指すチャレンジプランの項（6 次産業化＋ブランド化の推進）を追加など

将来像を実現するための施策展開（4つの基本的方向と 16 の方策）

- ・基本的方向 1 姫路の特性を活かした農林水産業の推進
改訂ビジョン新規項目（一部抜粋）

方策：市民の暮らしを支える農産物の安定生産

施策例：スマート農業の推進➡ICT やロボット技術の活用で超省力化、高品質生産実現。

方策：水産資源の維持回復による豊かな海の実現

施策例：漁場の貧栄養化の抑制➡浄化センターで試験的に栄養塩管理運転を実施。

- ・基本的方向 2 食の安心安全とブランド化の推進
- ・基本的方向 3 市民と農林水産業とのふれあい促進

改訂ビジョン新規項目（一部抜粋）

方策：農林水産業とのふれあう機会の充実

施策例：農福連携の仕組みづくり→市民農園等を活用し障がい者と触れ合う機会を提供。

- ・基本的方向4 姫路らしさを育む農山漁村づくり

姫路の農産物紹介

- ・水稲（主食米）市内農地の焼く44%で姫路市民のおよそ33%分をまかなう。

（酒米）品種：夢錦

- ・ハーブ（カモミール、バジルなど）休耕田を活用し企業参入
- ・白小豆（白雪大納言）白いぜんざいを提供 ・小麦 稲作の後作
- ・葉物野菜（ほうれん草、小松菜、水菜など）企業参入で水耕栽培
- ・トマト 企業参入あり 最近はドライ野菜にして販売も ・姫路ネギ ・ゆず ・いちじく ・もも ・ぶどう ・れんこん ・姫路和牛 ・姫路グルメポーク桃色吐息

※生産者がこだわって作る物あり。最近では、網干メロン、ファースト系トマト、姫路メロン、バナナなど若い就農者がこだわりを持って生産し、人気、価格も高く高収益に。

※姫路市農産物ブランド化の推進 姫路市内で生産した農産物にマーク添付（姫そだち）

※姫路市新規就農促進 PR ビデオ作成 先駆者を紹介するビデオでYouTubeで配信中

2020年度からの事業 林田チャレンジ農園

- ・農作業を手軽に楽しむ貸農園区画の他、本格的な農業にチャレンジできる区画とビニールハウスを備えた農園を2020年に開園。チャレンジ区画では、農業の専門職員等による栽培講習が付いているので就農を目指すことも可能。※農機具は無料貸し出し。

○貸農園区画は1区画35㎡で18,000円/年

○本格的農業チャレンジ区画（農業試験場職員が指導）

1区画100㎡+1棟175㎡で156,000円/年

質 疑

Q：若者の就農が多いように感じたが、何か秘訣があるのか？

A：最近の若者は頭が良く、一獲千金を狙えると思い就農を目指す子が増えた。事実、メロンやバナナで単価が高く売れているものを作る子も出てきた。しかし、農業はそんなに甘いものではない。食べ物を作るのは文化であり、作る責任や苦労を教えるのが私たちの責任と感じている。来年度からのチャレンジ農園はそのような思いから事業を始める。

Q：6次産業化はどれくらい進んでいるか？

A：施設やアドバイザーは充実しているが、大きく成功した例は無く細々とやっている。

所 見

都市圏だが、合併にで市域は広く山から海までと八代と大差はない。生産額等は八代に及ばないが、新規就農を目指す若者が多く、またその対策は素晴らしく学ぶべきものがあると感じた。チャレンジ農園やPRビデオの作成など八代でも実現に向け担当部と話をしたい。